



に「どがつきました」「どあほ」と言われた記憶があります。祖父にも父にもストリートにいろんな事を言われてきたのは今思えば良かったと思つていますね。

**市長** 古賀さんのお祖父さんの河守浩さんは、東京で事業に成功されましたが、舞鶴市出身ということで、市の公益事業の推進のためにと多額の寄付をされました。お祖父さんは、どんな方だったのでしょうか。

**古賀** 近所のがき大将だったようです(笑)。

**市長** 御社の記念誌に書いてありましたが、明治時代に英語が必要と思われたというのは発想がすごいですね。

**古賀** 福知山で働いていました、その時に交通の要所として活気を帯びてきたのを目のあたりにして、「これからは外国だ！」と思い、英語を習得しなかったようです。それで横浜に行きまして、「西洋野菜屋」で修業したと聞いています。チャレンジ精神が旺盛で、夢を追いかけるタイプだったようです。

**市長** 物流を始められたきつかに「どがつきました」「どあほ」と言われた記憶があります。祖父にも父にもストリートにいろんな事を言われてきたのは今思えば良かったと思つていますね。

**古賀** 私の代で一つの目標に向かっていける体制を作っておいて、次の方に渡さないといけないと思つていました。

けや、大手通信メーカーと取り引きをすることになった経過はどうだったのでしょうか。

**古賀** 東京で働き始めた「三神回漕店」という会社が日本郵船の専属回漕店であったことで、輸送業のノウハウを身に付けたようです。戦前は、満州で旧電電公社の電線を日本から船で運んでおりました。戦後の復興の時に、当時最新鋭の電話交換機や次の時代の「クロスバ交換機」の普及の波に乗り、それを全国に運んで設置したようです。

**市長** それが時代とともに、電話からパソコンなどの精密機械へと変わつていったということですね。

**古賀** そのとおりです。

**市長** お父さんの和彦さんが会社を継がれましたが、戦時中は軍医になる予定だったと伺いました。医者をされていたんですか。

**古賀** はい。東京医科大学で基礎医学を学生に教えていました。

**市長** それがなぜ会社を継がれたんでしょうか。お祖父さんが会社に呼ばれたのですか。

**古賀** いろいろ圧力があつまして祖父は主な取引先二社のうちの一方の会社との取り引きをやむなくやめようとなりました。祖父はもう年を取つておりましたので戦略を考えるのが面倒になつたんだと

風穴をあけるつもりで何か会社の支援をしたとは思つてはいたのですが、そのタイミングで、父から、うちに来いと

言われて、平成12年に今の会社に入りまし

た。お父さんは古賀さんの資質をしつかり見ておられたのではないかと思つています。1,000人を超える社員を抱える会社は、子どもだから継がせるのではなく

て任せられる人に任せないといけないと思つています。これから先、会社を継がれる上で、何を大切にしたいとお

考えですか。

**古賀** 本当に難しいことですが、付加価値のところを増やしていきたいと思つています。また、



入られたわけですね。

**古賀** そうです。さすがに2足のわらじは履けないということで、当時は開業医をしていましたが辞め

入られたわけですね。



基本をおろそかにしてはいけないなと思つています。スペインのサッカーの監督が、大事にしていることは「型」とおっしゃっているのを聞いて、スペインつておらかなイメージだったので意外でした。遊びから入ることもいいけれども、一定のレベルよりも一歩上を目指すには子ども

の頃にしっかりと、基本を身につけることが重要だと。最も大事なあと考えさせられました。

**市長** お祖父さん、お父さん、古賀会長という「型」の中で、社員教育もしっかりとやり、新たな時代に沿つた経営をされるということですね。

**古賀** 会社にとって「人材育成」は最も重要です。これから人が少なくなるので、ドライバーの確保も大変になってきますが、経験をさせることが大切で、経験がないと成長はないのではないかと思つています。人事考課も大切ですが、減点されないように動けば良い点数が付いてしまいます。でも、そこを私たちが感度をよくして見てあげることが大切ではないかと思つています。失敗を恐れていると小さく

まとまってしまうので、やり遂げるという達成感を持たせてあげたいですね。

**市長** 今回お話を伺つて、当然のように代々会社を継がれていたの

て会社を継ぐことになりました。

**市長** 医者であつたお父さんとお祖父さんの経営方針は合つたんですか。

**古賀** 全く合わなかつたと思つています(笑)。祖父は昔ながらの商人で、父はテクノロジータクティカルな考

え方をしておりましたから。

**市長** 3つの社訓、「共同・融和の心」「貢献する心」「挑戦する心」を掲げてられますが、これはお父さんの言葉ですか。

**古賀** そうです。全く考え方の違つた二人でしたが、この3つは共通の思いだつたと思つています。物流は地味でつらい仕事ですので、「皆さんに貢献できていくんだ」ということを社員にも自信を持つてもらい、モチベーションを高めるためにも良いと思ついたので、会社の100周年の時に私が社訓としてまとめました。将来に渡つて重要な言葉だと思つきましたし、きつちりと残しておかないといけないなと。また、先ほど申し上げました理由で会社が二系列に分かれておりましたので、私の代にそれを二つに統合しておかないといけないと思つきました。

**市長** 会社を統合することは創始者の直系でないと思つています。それを古賀さんの時にされたというわけですね。

ではなく、親はしっかりと子ども

の適正を把握し、子どもの自主性を尊重され、自らが動くまでは干渉されなかつたということが分かりました。今の干渉しすぎる親子関係を少し見直して、子どもの自立と自律を促すことが大切ではないかと思つています。一層強くなりま

した。古賀さんのさらなる活躍を祈つております。

これからも舞鶴の豊かな自然に触れ、自然の恵みのおいしいものを食べに、お祖父さんの故郷である舞鶴にいらつしやつてください。

**古賀** そうですね。今日はありがとうございました。

